「新しい契約を結ぶ」(MWB20260901 宝)

0.(「新しい契約」が信頼感を持って受け入れられる有益な契約と言えるのはなぜ？)

今日、条約や契約という言葉は人々に、あまり信頼感を持って受け入れられる言葉ではない。
ではなぜ「新しい契約」は十分信頼できる有益な契約と言えるか？私たちは何を学べる？考えて
この新しい契約を理解するために、まず以前の契約である律法契約の目的に注目する

1．(エホバは律法契約の代わりにより長く多くの人のための「新しい契約」を結ぶと約束)

律法契約は、約束の胤を待つ国民のために、幾つもの価値ある事柄を成し遂げることになって
①その胤は、多くの人に祝福をもたらす経路になります
②イスラエル人は律法契約を受け入れた時、神の「特別な所有物」となった
③エホバは、シナイ山でその国家的な契約をイスラエルと結んだ際語られた、「祭司の王国、聖なる国民」が生まれるまでの間、この契約は、イスラエル人が律法の全条項を守ることはできないという点をはっきり示し、彼らの罪を明らかにした
④律法下のイスラエル人は、自分たちの罪を覆うために定期的に犠牲をささげなければならず、もっと優れたもの、罪の永続的な許しを得る完全な犠牲の必要も明らかにした

それで、エホバはモーセの律法契約の代わりに「新しい契約」を結ぶと約束した[エレ 31:31、32]
それは、より長い期間、より多くの人のためになる契約だった。どうしてそう言える？

2.(新しい契約は、エホバと「神のイスラエル」の間で結ばれ、罪を許す法的な根拠になった)

エホバは子どもを懲らしめずに甘やかしている親のように単に罪を帳消しにするのではなく、
罪を許すための法的な基盤を据えて、ご自分の公正の規準をきちんと満たされた。しかもそれが自ら多大の犠牲を払ってでもそうされた。それはパウロの説明から良く理解できる
[**画像表示**]パウロは『贖いによる釈放/解放』に言及し、「血が注ぎ出されなければ、許しはなされない」と述べています。新しい契約の場合、血と言っても、律法下でささげられたような雄牛ややぎの血のことではありません。新しい契約は、イエスの血によって発効しました。エホバはこの完全な犠牲に基づいて、永久に『罪を許す』ことができる[**画像感謝**]
では、だれがこの新しい契約に入り、そのような許しを得るのか？ユダヤ国民ではない。
イエスによれば、神は、律法下で動物の犠牲をささげていたユダヤ人を退け、別の国民に注意を向けられ、その国民とは、聖霊で油そそがれたクリスチャンから成る「神のイスラエル」である、ということが明らかになった
基本的に言って、律法契約が神と生来のイスラエルとの間の契約であったのに対し、新しい契約は、イエスを仲介者としてエホバ神と霊的(神の)イスラエルとの間で結ばれる契約
[エレ 31:33、34]罪許す法的な根拠になった。では地上で生きる人々については何と言える？

3.(「神のイスラエル」の一部ではないクリスチャンも、新しい契約の恩恵を受けている)

その人々は新しい契約の**当事者**ではありませんが、求められる事柄に服することにより、***受益者***となります。それは預言者イザヤが予告していたとおり、「外国人たちを、自分の聖なる山に連れてきて、その家は全ての国の人々のための祈りの家と呼ばれ」ている
このように、新しい契約は、罪深い人間に対するエホバの接し方の素晴らしい一面、ひとたび罪を扱ったら、その罪を再び持ち出したりしないことを際立たせている

9.(私たちは自分たちが受けている恩恵にどのように感謝を示すべきか)

これは、小さな過ちだけでなく、ゴメルに対するホセアの態度によって例示されていたクリスチャンである配偶者の姦淫の罪のような重大な過ちにも当てはまる。悔い改めた配偶者を許したなら、「罪をもはや思い出さない」エホバに倣える
では新しい契約から益を受ける私たちも、引き続き隣人の罪を許し愛を示し続けて感謝を表す